

意見集約に関する委員からのアイデアおよびご意見の整理

委員会の進め方	意見の整理方法等
<p>① 委員会規約第3条の目的を達成するための意見を具体的にどう表現して行くのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 河川管理者側の目的は。 ● 流域委員会側の意見集約範囲は。 <p>② 委員長より事前に議題を提供するような形式でいかがでしょうか。</p> <p>③ 大和川本流の事を考えるに当たって、大阪、奈良の支川の整備計画との関係が利水、治水において特に重要になってきます。そのため、大阪府、奈良県の管理河川の整備計画と現状を入手し検討する会議の設定が必要です。</p> <p>④ ワーキンググループによる以下の方法を提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ワーキンググループをつくり「特徴・歴史」、「空間利用」、「環境」、「利水」、「治水」、「教育啓発」の6グループとする。 ● 委員が分かれ、グループの主題の整理また提案を、次回9回の委員会でコーナーに分かれて協議する。 ● 第10回委員会に提示して協議する。(庶務のプランでは意見集約は第9回委員会となっている。) 	<p>① これまでの委員会における意見、質問を適当なテーマ、カテゴリーに分類して整理し、テーマ別に審議する。</p> <p>② 当面の対策（承認）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 下流：スーパー堤防の整備 ● 中流：亀の瀬地すべり対策 ● 上流：奈良盆地の総合流域対策 <p>③ 将来の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 流域内に降る雨の最大をいくりに設定し、それに耐えうる河川の設計をどうするのか。 ● 適切な河床勾配を取り、最適な流下能力に基づき内水被害を減少させる対策。 ● 将来に発生する河川改修によって自然環境に及ぼす要因をクリヤーすること。河口から何kmというように区間を区切って、意見を整理し、区間毎の河川整備の目的を審議して結論を出していく。 <p>④ 河口から何kmずつというように区切って、その間での目的を話し合っ て結論を出して行けばどうでしょうか。</p> <p>⑤ テーマ区分の項目に「環境教育・住民啓発」を加えて頂きたい。</p>